

第二十三回 歯の咬み合せ

顎関節症を一時的に治した上ですぐに歯の咬み合わせの調節をしなければなりません。咬み合わせが狂ってしまいますと顎関節症に戻ってしまいます。例を挙げますと

1. 腰の骨(腰椎)が下方変異(腰椎の左右どちらかが下に下がり反対側は上に上がっている)していますと、足・背骨・首の骨・頭蓋骨も全ての片方が下がり、反対側は逆に上がり、天秤(てんびん)のようになっています。上顎でいいますと、下がっている側の上顎骨を上げてきますと反対側の歯の咬み合わせが高くなります。
2. 腰椎の回転変位していますと頭蓋骨の左右の骨が前後に捻れています。
3. 上顎の前歯の正中線と下顎の前歯の正中線を合わせなければなりません。但し、左右の歯の高さで上下顎の正中線を合わせますと体が捻れ、左右の足の長さも違いだけでなく、腰と肩が逆方向に捻れ、頭蓋骨も捻れ、体の不調が引き起こします。

これら 1・2・3 を正常な位置に持ってきますと、どこかで強く当たっているところと、弱く当たっているところが出てきますと頭蓋骨が異常反応を起こしているところがあります。そして、首の骨、背骨、骨盤、足の膝、足のヒザ、足のつま先、足の甲、足のかかと、内臓、特に内臓のうちで一番疲れやすいのが腎臓、その時右の腎臓か左の腎臓等かを見て、さらに顔の左右の頬骨が前方へ出すぎてしまいますと脚のヒザの脛骨左右とも後へ下がりますと、背骨の上部に負担がかかり、猫背・無意識の咳が出やすくなります。逆に左右の頬骨が後へ下がりすぎると足のヒザの脛骨が左右共に前へ出て足のヒザに負担となりヒザが変形を起こします。左右の頬骨が左右共に同じように前方に出ているか左右共に後方に下がっていますと両足の冷え性・足がむくみ首の骨・背骨が全て直(正常は前湾です)となり、不定愁訴のかたまりとなります。

又、片方の頬骨だけが前方、もう片方は後方になりますと、前方に出ている側の方が血の流れが悪く、その側の足だけが冷え症となり、顎は片方だけ音が鳴りやすくなります。この場合も左右の頬骨が前後のズレが大きいと首の骨は直となります。

これらの事を考慮に入れながら歯の咬み合わせの調節を致しますと、頭蓋骨の前後・左右共にバランスのとれた形になりますと多少腰が痛いとか、背中が痛いといっているでも無視すればよいこととなります。(勝手に補正して治してくれます。)

頭蓋骨を正常にすれば、首から下の骨も正常に動いていることです。又、頭蓋骨、歯の咬み合わせのバランスがとれていなければ舌骨(下顎骨の真ん中より下で舌の下)が正常な位置からズレていることとなります。頭蓋骨の各骨をバランスをとれますと、歯の咬み合わせで舌骨を正常な位置に持ってきますと、頭のとっぺんにあるツボ「百合(ひやくえ)」も正常反応を起こし、この「百合(ひやくえ)」は自律神経の交感神経と副交感神経のバランスをとるツボです。

この「百合」が異常反応を起こしますと、自律神経失調症又、自律神経失調症のうちの一つである

「うつ病」と関係があります。首から下を良く治したところでも 50～60%後の残りは頭蓋骨です。首から下を治しても頭蓋骨は動かないものです。但し、中学生迄の成長の最中ですと補正して頭蓋骨は動きます。

成長末期の高校生以上は先に首から下を先に治してそれからすぐに頭蓋骨の調節に移らなければなりません。首から下をやらずに頭蓋骨をやると頭蓋骨をこわすことになります。

機械で言うなら油を先に流してそれから機械を動かすように…。頭蓋骨まで正常にしましてもまた歯の咬み合わせのバランスが悪いとスグにもとの状態に戻ってしまいます。

そこでスグに先ほど申し上げたように頭蓋骨を初め体全体を見て歯の咬み合わせの調節をしなければなりません。

ほとんどの歯医者は歯の咬み合わせの調節は歯の高いところの歯を削るでしょう。頭蓋骨及び体の捻れ、ズレのバランスの事を頭に入っていないから歯医者に行けば行くほど体が悪くなるというのは本当の話です。このように顎関節症及び歯の咬み合わせを直すのは体全体の事を知り、又体中の痛みをとる位の腕がないと出来ないということになります。整形外科に行っても治せなくても、整骨院へ行っても治せなくても治す腕が必要となります。

ですから顎関節症は世界的に余り治せないということになります。アメリカの某歯科大学の顎関節症は体全体を治すところがあると聞いています。